



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
編集 早川清志  
題字 島崎洋路

### 第4回森林塾報告 テーマ「伐木造材」 『使って慣れるチェーンソー』

やはり今年も雨が少なくてしょうか。六月初めに入梅してから週末に降らないのがとても嬉しい。からっと晴れたわけではないのです  
が何とか一日もって、伐木造材の実践を終えることが出来ました。  
今、山造りを始めるとき、チェーンソーは不可欠な道具



石原班のかり木処理。まずはみんなで揺すってみる



受け口がうまくできれば伐倒は成功に近い



ヘルメット姿に迫力がない風見さん



藤野さんは伐木造材受講済みです

になりつつあります。手入れが滞っていても木は徐々に大きく、太くなってきますので、多くの手入れが必要で山林は、手ノコでは太刀打ちできないサイズの木で、あふれているといっても過言ではないでしょう。  
ポラントピアで山つくりに関わっている方がどんどん増えていきます。いきなりチェーンソーで、というのは論外ですが、回を重ね、手ノコで大きな木を倒すことに少しづつ慣れて来たら、チェーンソーに挑戦してみてもいいでしょう。  
決して安い道具ではありませんが、二

十年と使えるものですし、正しい使い方をすれば危険な道具ではありません。年々小型化し、性能も上がってきていますので、二、三十年前のような、振動障害を心配する必要もそれほどはなくなってきました。  
でもやはり侮れない機械であることは確かです。一瞬で大怪我という事もないわけではありませぬ。しばらくの間は慣れた人についてもらうこと。そしてできれば、都道府県の林務部などが開催している伐木造材特別教育を一度お受けになることをお勧めします



上原さんのお土産用に保科先生が輪切り

今回の内容  
第4回 6月16日(土)  
伐木造材  
8時30分 島崎先生の山小

9時 ますみヶ丘平地林の一角、伊藤山林に向かう。伊藤さんは年末のそば打ちの時にいつもお世話になる伊那市の粉屋さんです。味噌作りの国産大豆もいっつもここで用意してもらっています  
9時20分 六班に分かれて現場に入る。三ノアルあまりのアカマツ、ヒノキ林です。上層のアカマツは二十メートル以上ありますが形質は今ひとつ。ヒノキは十メートル強の高さで十年以上前に枝打ちがなされた形跡がありました  
一年目の方はまずはチェーンソーの始動、それから玉切りの練習、そして枝払い。  
12時 昼食。各班おもしろい場所で。

三時過ぎまでの時間の中で一人一本は倒していただくか。宮崎、野口

切れのよいところで実践は終了、周りを見回すと曇り勝ちの空ながら林に光が差し込むようになりました。今後この林はイントラ石原、宮崎ペアが間伐の仕上げをしてくれる予定です。



亡きご主人の残した山を守りたい、上原さん



二年目則竹さん、一日の長ありは必ず燃料を抜くこと。抜いた上で始動しキャブレター内の燃料も燃やしてください。燃料が変性しキャブの中に詰まるのを防ぎます。しばらく使っていないチェーンソーがかからない大きな原因

講師/保科先生

**1時** 午後の部開始 川島班は太いアカマツに挑戦。でも込んでいて素直に倒れない。かかり木にしてしまい苦労していました

**3時** 伐木造材終了。小屋に戻り、イントラ宮崎によるチェーンソーメンテナンス講座。「使い終わったらずその日のうちにお掃除しておいてください」とは保科先生のアドバイス

**4時** 終了、解散

参加者/上原さん、奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、栗林さん、佐藤(健)さん、佐藤(誠)さん、塩谷さん、白壁さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、中村さん、久部さん、藤野さん、逸見さん、松ノ元さん、松本さん、桃澤さん、森さん夫妻、山浦さん、渡辺さん、池田さん、稲垣さん、塩田さん、則竹さん、芳賀さん

スタッフ/石原、川島、後藤、佐藤、野口、藤原、宮崎、大野、椎原、平林、坂野、坪木、此村、早川

**次回以降の予定**  
**第5回 6月23日(土)**  
**測量と製図**

森林調査の一環です。山林の広さ、傾斜を測り図に落とします。すべて手書きです。分度器を使うなんて中学校以来という方もいるかも。

8時30分島崎先生の山小屋に集合。筆記用具(BかHBの鉛筆がベター)、電卓(三角関数がついているものがベター)ものさし。よほどの雨の時以外はおこないます。

**第6回 7月7日(土)**  
**下草刈り**

島崎先生の山小屋に8時30分集合。天気との相談で現場を決めます。今までに森林塾で植林した所の下草刈りをおこなう予定です。造林ガマ、手ガマで。

**第7回 7月20日(金)**  
**間伐**

海の日の祝日です。お間違えのないように。  
 ハードな実践が二週続きです。

前半の最後になりますので暑気払いを計画しています。なかなかジックリお話をする機会がもてませんでしたので、ふるってご参加ください。実費必要。小屋は雑魚寝になりますので、あればシュラフを。

**ワンポイントレッスン**  
**チェーンソーの話**

正しく使えば簡単でとても便利、でも侮ると大変に危険な道具です。いくつかの諸注意

- ・ 始動時は握り部分を脚で押えてかけること。先生方やイントラの大半は持ったままかけるいわゆる「落としがけ」

をしていますますが真似してはいけません。ハーフチョークで始動した場合は当然チェーンが回転します

- ・ エンジンはこまめに切る。かけたままその辺りに置いておかない。振動で動き出し、傾斜を転がって渓流にドボン。オシャカにした奴がいる
- ・ バー刃先の位置を把握して。枝払いの時、向こう側から下枝を払い、刃が自分のひざに。これ何人が聞きました。
- ・ エンジン切る時はスタータロープを少し引つ張った状態で。切った反動でロープに負荷がかかり、傷めやすい。同じ様に始動の時もかかった時にいきなりロープを離すとロープを傷めます(不要な機種もある)
- ・ 土、砂を切らない。(どうせ切れませんが)土はまだしも砂を切ると一瞬で刃が丸くなります。倒そうとする木の根元に泥などついていたら落とすか、なで皮をむいてから切りたいもの



いきなり木に登るネコか煙か身軽な中村さん



今度は勇姿、風見さん



30アールあまりの広さに460本ほどの木がはえていました。本数で半分以上は伐りたい。本日の実践ではいくらか伐れなかったが少し明るくなった。



トピックス

六月三日の日曜日、田中康夫長野県知事がKOAパインパークを訪れました。



森林塾を初めとするKOAの環境に対する取り組み、および鳥崎山林研修所の皆さんの日ごろの活動などを踏まえ、伺って話を聞きた

いという知事の意向で懇談が実現しました。

県からは知事のほかに政策秘書と林務部から二人の方が参加されました。

一方こちらは向山孝一KOA社長と保科先生、鳥崎先生、ならびに後藤、川島、中村、藤原、宮崎、石原、大野、

リレー通信

「さらば、放浪の日々よ」 伴野 慶

僕は今二十一歳だが、いつもフケて見られるらしく、以前鳥崎先生に、「三十六だと思っただけであつた。何故フケてしまったかと言えば、十代の頃大変苦勞してしまつたか

らだ。

中学の頃学校に行かなくて、そして高校にも進学せず自分の生き方をしてみようと思つた。が、不本意な事しかできず、ひたすら「自分とは何か」とか、人間とは何かとか考へる日々を送つていたのだ。

僕は長野県の佐久の出身なのだが、丁度その頃佐久の地が、高速道路や新幹線の開通に伴つて急激に変わり始めた。大型店がどんどん建ち、高度資本主義時代の真っ只中で、僕は「これが本当の文明なのだろうか」という思いを強くしていた。

十八歳の時に、人間は自然

平林、椎原の研修所の皆さん(森林塾ではインストラですが)と森林塾事務局関係者三人の参加で、忌憚のない意見の交換がおこなわれました。

造林を政策の大きな柱と位置付ける知事は、現在の山林の危機的状況を訴える先生方や研修所の皆さんの話にうなずいていました。

予定の二時間を大きく超え三時間あまりの懇談でした。帰り際には保科先生が育てられたヤマボウシの記念植樹をして下さいました。



との関係により存在している事に気付く、人間だけで独立する事はできないのだな、と悟つた。しかし、ただ一方的に人間が自然を支配し、略奪し、破壊している様にしか見えなくて大きく絶望した。

哲学者・内山節氏の言葉を借りれば、「二十世紀にはいつて、哲学者達はがっかりしてしまつた。そこには非常に無力化した自然と人間とが横たわつていただけだ。僕もまたがっかりして、約一年神経を害してしまつた。

十九歳の時、鳥崎先生の「山造り承ります」に出会つた。日本の山の危機を知る事ができたと同時に、先生の山



回る。まるでそれは、小さな生命が爆発している様だつた。

ベトナムでは、まずホーチミンに行ったのだが、ここでは道路にバイクがあふれていて、それを見て「人民達はどうしてこんなに前へ

に対する情熱、意欲に超人的なものを感じた。「森林塾に行きたいな、鳥崎先生の弟子になりたいな」と思つた。しかしまだ僕の力が不十分で、当時は断念せざるを得なかつた。

僕は力をつけるために旅に出た。昨年二月三月と東南アジアへ行き、タイ・ラオス・ベトナムと回つたのだが、行けども行けども荒地やハゲ山ばかりで、自然が破壊されている現実を目の当たりにしたのだ。

ラオスのメコン川沿いの村に泊まつた時、河原に大きな丸太が何本も無造作に置かれていて、これは何かと問うと薪にするらしく、食堂に入つてうどんと目玉焼きを注文すると、女の子がやはりかまどに薪をくべて料理をつくつてくれたのだ。山の木々は、人々の口に入る熱に変わつて行く、金のために売られてゆく。自然と人間の生態とはやはり対立しているのだ。夜になると、子供たちは解放された様にはしゃぎ

前へ進めるのだらう」と不思議に思つた。僕にはそんな力はない。伴野よ、お前も明日に向かつて走れ！」そんな声が聞こえてくる。しかし明日とは一体何処にあるのか。ベトナム北部では、ハゲ山を背にして働くお百姓さん達が、とてもたくましく、昔の信州もこうだつたのかと思つたりした。

続いて昨年八月、北海道を歩いて縦断してやるうという無謀な挑戦に出た。函館から出発して、宗谷岬を目指した。一日二十五キロぐら歩き、夜はテントで寝ていた。長万部・室蘭・苫小牧・二風谷・日高・富良野と進み、旭川の手前の美瑛まで二十日かけて四百五十キロ歩き、これで十分と思ひ終了した。この旅では、非常に鮮烈な手応えを得られ、満足している。歩く旅は忍耐であり、感動であり、哲学であるわけで、自分を鍛えるため若い人はもちろん年配の方にもぜひおすすめ致します。

その後、「森林塾・秋のBコース」とか、地元佐久での「愉快な山仕事」に参加し、現場の实感を少しでも掴もうとしてきた。特に「愉快な山仕事」は、フィールドである大沢財産区の議員さん達と、都会の人々とが協力してつくりあげている講座で、地元で行われている事が大変素晴らしいと感じている。

その他の時間は、家の仕事を手伝つたり、アルバイトをしていた。父親は大工だが、この十年くらいはツーバイフォー住宅をやらざるを得なくなつていた。ツーバイフォーは構造上二十年ほどしかもたず、大変な資源のムダ使いになつていく。「こんなのを継ぐには僕は嫌だな」と石膏ボードを張り替えながら考へていた。

弟も仙台筆筒の職人見習いとしてこの三月から働き出した。僕も山の勉強をしようと思つて、信州大学農学部で聴講生を装つて、四月に伊那へ引越した。

森林塾の人達も面白い人が多く楽しみだ。大学もうまく利用していきたい。一人で生活しはじめて、自分の力不足・勉強不足を痛感している。積極的に動いていきたいので、どうぞよろしくお願ひします。



# リレー通信

信州に辿り着いた経緯  
～三つの感動を経て  
逸見広心



このたびの森林塾参加に当たって『なんで、なんで、そんなに遠く、岡山から信州まで来るの？行くの？』とヒトから問われた。『本当にそんなに遠くまで行く必要があるのか？』と自分の懐具合を納得させるためにも、(冷静に考えると結構な投資なのです。やはり)このリレー通信、よい機会なので、自分自身を振り返ってみた。

とつ、今の自分とそれまでの自分をつなげる大事なものと、して今の自分の生きるベクトル(方向)を決定づけてきたように思う。

## 私のバックボーン

小さい頃からなぜか分らないが、『強く生きる』『自分の力で生きていくこと』にカッコヨサを感じた。「大草原の小さな家」というアメリカのTV番組が大好きで、冒険ものの本は飽きずに繰り返し読んだ。

## 一ツ目の感動

十代、高校生の頃だったと思う。(中学生だったかも)そのころ、『国際協力』という言葉が一般的に広まってきていたのだと思う。TVで、アフリカのどこかの国で農業水路を作っている海外青年協力隊を見た。ほとんど、近代設備のない状況下、現地の人と共に生きるための水路をなんとか作っていた。カッコイイ！私は農業分野で海外青年協力隊を目指すことにした。

もうひとつついでに高校時代。成績が最悪だった日

本史の中にあつて大変印象に残ったヒトの名前がひとつある。『安藤昌彦』である。生きるものは皆、農業をして自分の食べるものは自分で作るべき(全農主義)と主張したヒト、と私は解釈し、これこそ私の指針。と感

銘を受けた。その後、全集を買い、陳列した本の背中を見て満悦している。

## 二ツ目の感動

大学、農学部に入った。海外協力で興味を持った私は神戸の国際協力のNGO(PHD協会)に入りたいように思った。そこで、海外の問題は実は私たち、富める日本の生活につながる問題だということを知り、あっさり、海外協力隊へ志願するのは止めた。そのNGOで日本の様々な近代病(農業の、工業の)を知り、それと闘い、時代に逆らう(？)バブル絶頂期でした(人たちに会った。その中のひとつに水俣を訪ねての出会いがあった。あの公害病『水俣病』の水俣である。そこで、現在進行形の水俣病に出会い、田上義春氏の生き方に出会う。学校教育の中で過去完了形(私はそのように受け取っていた)で知っていた水俣病が自分の生活の延長線上に現在でも「ある」ことに、ショックを受けた。田上氏は水俣病患者のひとりである

が、裁判で争うことに見切りをつけ、自由の利かない身体なりの自給自足生活を力強く営んでいた。感動した。

現在、農業高校に勤めて十年目です。

## 三ツ目の感動

四、五年前のNHKの夜の番組で、岡山県の北部、勝英

地域で山仕事をしている人たちを見た。カッコイイ。細かいことはあまり、憶えていないが、伝統的な技術も磨けていき、山を管理できるヒトが居なくなりそうなか、がんばっているおじさんたちがいた。

我が家にも本当に少しだが、祖父が管理していた山がある。ほんの少しの山と畑をやりながら、細々と祖父たちは暮らしてきた。祖父は自分で山から水をひき、暮らしてきた。そんな生活能力が今の私にはない。これは、タイヘンなことである。畑の方はなんとなく、趣味程度だが、ぼちぼち、やっている。山については、皆目見当がつかない。山は資源の宝庫だが、その利用方法を知らない。山仕事について知らねば、と、ここ何年か、山、やま、ヤマとアンテナを貼り、ここ信州森林塾にたどり着いた次第なのです。系統立てて、山仕事について教えて下さる場所は結構希少なのです。有り難いことです。

そして、今

生徒に農業や林業はステキな大事な仕事だから、ぜひ、やるといい。と大きな声で言えない。経済的なところで自ら躊躇した状態ではとても言えない。これが、つらい。ぜひ、一緒にやろう。

と、経済的にはちよつとしんどいかもしれないけれど、こんな生き方もあるから、仲間になる。と十代の若者に言えるように早くになりたい。

## コラム

記録的な少雨と極端な暑さに見まわれた春が終わり、初夏の訪れを告げるかっこうの鳴き声が聞かれる季節になりました。梅雨にぬれて木々の緑も深く濃くなってきています。

今回で4回目になりましたが、各方面から伊那を訪れる方々、伊那の印象はいかがですか？今号より新しくコラム欄に拙文を寄せることになりました。未熟者ゆえ、何の為にもならないでしょうが、伊那からの便りと軽く読み流して下さい。

とはいえ、伊那市民としては新人なので、不適切な表現等ありましたら、伊那の諸先輩方には素早くご指摘ご指導いただけたら幸いに思います。また伊那に対抗する各地の情報もぜひお寄せください。

今回は伊那市のイメージキャラクターを紹介。伊那市のテーマ「水と緑・伊那市の頭文字「I」・市の花つじをモチーフにした「イーナちゃん」。もう見つけましたか？温泉に入ったたりバイクに

乗ったり、いくつかのバージョンがあります。グッズも販売されていて最近新しく携帯ストラップも出ました。一時期、警視庁のピーボくんストラップが話題になりましたが、イーナちゃんはどうでしょうか。みなさん、おひとついかが？(テッカマン)

## おわりに

KOAの株主総会の後に開かれた感謝祭で、森林塾事務局はミニ椅子を作る木工教室を企画しました。間伐材で作った座板と脚を組み立てる簡単なものですが、子供さん同士や親子連れに大人気(手前味噌かな)でした。

間伐の実践等が出た、使えそうな材を板や角材にしてあります。ちよこつとなにか木工をしたいというような方、ご相談ください。

さて測量の次は下草刈り。枝打ちや下草刈りがとても面白いという方がぐくまれます。個人的には伐倒の方が楽しいと思うのですが、さてあなたはどちらでしょう。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。  
TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail:  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
mi-tsuboki@koanet.co.jp  
携帯:0902-53-26375(開催日)  
H.P.http://www.koanet.co.jp

